



健康相談室だより

NO. 91



新理事長就任のご挨拶

2024年11月より、大宮シティクリニックの理事長に就任しました、中川良です。先代の中川高志が築き上げた「働く人の健康を守るクリニック」という理念を大切にしながら、新たな時代にふさわしい予防医療を提供していきたいと考えています。

私たちのクリニックは、従来の人間ドックに加えて口コモや体組成の評価など、加齢に伴う健康の変化を総合的に捉える視点を強化していきます。単なる健康診断にとどまらず、受診者の皆様が「自分の現在の健康状態を知り、未来の健康を守る」ための場となるよう、より精度の高い検査や評価が行えるよう努力していきたいと思います。さらに、AIを活用した補助診断を積極的に取り入れ、これまで以上に正確で効率的な医療サービスを提供することを目指します。

これからの時代、医療は単に病気を早期発見するだけでなく、健康を維持・向上させるためのパートナーであるべきだと考えています。そのためにもスタッフ一同が一丸となって、最新の知見や技術を取り入れながら、皆様の健康を支えるクリニックであり続けます。今後とも大宮シティクリニックをどうぞよろしくお願ひいたします。



理事長 中川 良

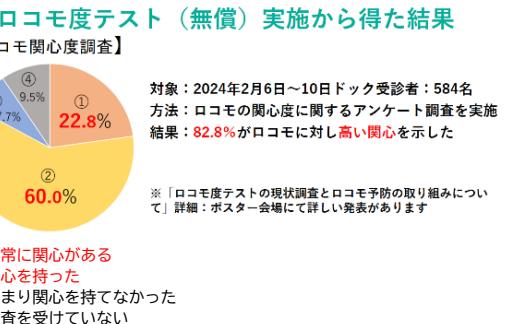
口コモ度テスト無償実施に関する当院の運用とコストに関する報告

2007年に日本整形外科学会が提唱した口コモティブシンドロームの概念に基づき、2015年には口コモ度テストの判定基準として「口コモ度1」「口コモ度2」が設定されました。当クリニックでは、2016年より「自分の運動器の衰えに気づく場」を提供するため、人間ドックの基本項目に口コモ度テストを追加し、無償で運用を開始しました。2022年度には、36,597名の受診者に口コモ度テストを実施しています。健康日本21（第二次）に掲げられた口コモティブシンドロームの認知度向上を目指し、全国の健診施設で無償運用が広がるきっかけとなるよう、当クリニックでの運用方法とその工夫について報告します。

【対象と方法】2022年度に人間ドックを受診した方を対象に、基本項目として口コモ度テストを追加しました。継続的な運用を目指し、受診者アンケートを用いて口コモに関する認知度を調査し、同時に安全な運用を実現するために必要な条件や経営資源を算出しました。

【結果】受診者アンケートでは、82.8%の方が口コモ度テストに関心や興味を持っていることが分かりました。安全な運用のためには、検査スペース約25平米（7.5坪）や人員（理学療法士1名、専属職員1名、補助スタッフ1~2名）および測定ツールが必要です。これらの運用に必要な資源は人間ドックの運営費用内で賄うことで、無償での実施を継続しています。

【結論】「自身の運動器の衰えについての気づきの場」を提供する取り組みとして、健診施設での口コモ度テストは非常に有効であり、口コモティブシンドロームの認知向上に寄与するものと考えます。また、運用に必要なコストや設備は効率的に管理可能であり、人間ドックを受診することで生活や健康に対する意識が高まる「チャンスの場」としての役割を果たしています。当クリニックは、こうした取り組みを通じてさらに口コモを普及させていきたいと考えています。



業務統括本部 部長代理 亀谷 招弘



医療法人 大宮シティクリニック

2025年 3月10日

胸部一般撮影でAI支援を使いこなす読影術について

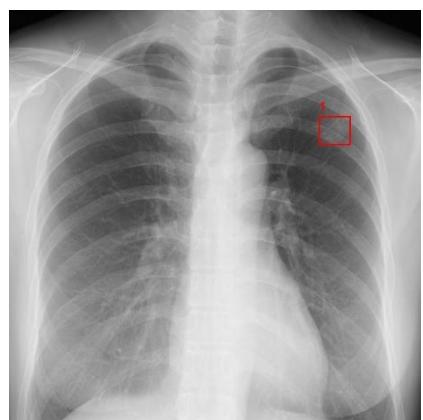
当クリニックでは、2024年1月末より胸部X線のAIシステム EIRL Chest Screening（エルピクセル株式会社）を導入しました。そこで、これまでの経験から胸部一般撮影でAI支援を使いこなす読影術についてお伝えしたいと思います。

EIRL Chest Screening は肺がんの疑いのある陰影を検出してくれます。特筆すべきは、ベテランの読影医でも検出が難しいようなわずかな陰影を検出してくれることです。（図a～c）また、AIは肺炎や気胸など、肺がん以外の予期せぬ病気も見つけてくれます。

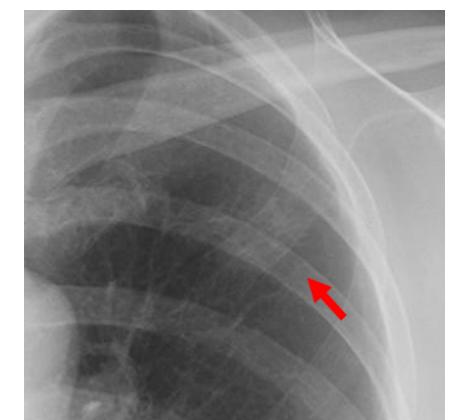
読影医は常日頃、見逃しの無い様に丁寧な読影を心がけています。しかし、検査数がとても多い日などは読影医も人間ですので、疲労がたまっていることもあります。疲労は集中力の低下につながりますので、見逃しの起きやすい危険な状況と言えます。そのようなミスを減らすために、当クリニックでは、常に二人以上の読影医が同じX線画像をチェックすることにしています。その体制にAIシステムを加えることにより、さらに見逃しの防止が望めます。AIは疲れを知らないので、何万件読影しても精度が変わらないからです。

一方、AIを使用するにつれて、AIが指摘した部分のすべてが癌のような精密検査が必要な病変ではなく、単なる炎症後の変化などのように、日常生活に心配の無いものも多く含まれることがわかつてきました。AIで指摘されているからと言ってすべて念のため精密検査に回していると、本来必要でなかった通院を受診者の皆さんに強いることになってしまいます。

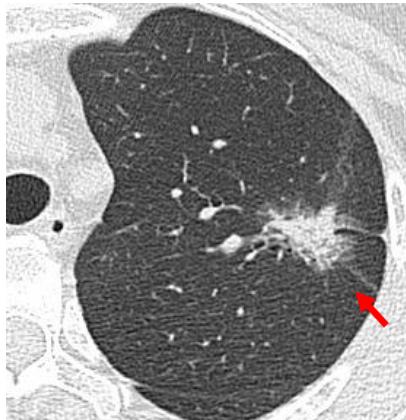
そこで、人間ドックの胸部X線の読影においては、まずは従来通り読影医が丁寧に読影することが大前提で、そのうえでAIの結果と照らし合わせて、わずかな病変の見逃しがなかったか確認する一方、不必要な精密検査を増やさないように心がけています。このように、最新のAIシステムの力と経験豊富な読影医の力をうまく組み合わせることが、「胸部一般撮影でAI支援を使いこなす読影術」ということになると思われます。



（図a）胸部X線



（図b）胸部X線拡大



（図c）胸部CT

放射線科医（読影医） 君塚 孝雄

